

鹿児島の植物45

沖永良部の植物(その2)

植物担当 大屋 哲

沖永良部島は、鹿児島市から約500km南にあり、隆起珊瑚礁に囲まれた島です。10月に調査する機会があり、その際見られた植物を紹介します。

ボウコツルマメ マメ科 花期9月頃

沖永良部島が北限の植物で、海岸の近くの草地や石灰岩上に生えていました。ダイズの仲間で、名前は、つる状になっており、台湾の澎湖諸島に自生することに由来します。



ボウコツルマメ

ヤエヤマハマナツメ クロウメモドキ科
花期6月頃

沖永良部島が北限の植物で、海岸の砂浜近くの明るい場所に生えていました。浜に生え、食用にされる中国原産のナツメに葉の形が似ていることからこの名前がつけました。



ヤエヤマハマナツメ

ツルモウリンカ ガガイモ科 花期8月頃

伊豆諸島や九州、南西諸島などに分布し、沖永良部島では、海岸近くの草地などに生えていました。うすい黄色の小さな花を咲かせます。果実は細長い形で、その中には、絹糸状の毛をつけた種子がたくさん入っており、果実が割れると風に乗って運ばれます。



ツルモウリンカ

キダチキンバイ アカバナ科 花期9月頃

湿地に生える低木で、沖永良部島では、用水路の脇に生えていました。高さは1mにもなります。名前は、花が金色で梅の花に似ており、さらに木になり立ち上がることに由来すると言われます。



キダチキンバイ

ヒトツバコウモリシダ ヒメシダ科

トカラ列島が北限の常緑のシダ植物です。

大山の林のふちや明るい林内に生えていました。葉の形がコウモリに似ており、コウモリがエケ所に群がるように群生するた



ヒトツバコウモリシダ

めこの名前がついたと言われます。

タカワラビ タカワラビ科

沖永良部島が北限の大型のシダ植物で、大山の林内で、明るい場所に生えていました。タカワラビの名前は不明ですが、別名はヒツジシダで、葉の根元は茶色の毛に覆われところが、羊に似ているのでこの名前がついたと言われ



タカワラビ

大山の調査では、台風で落ちたと思われるコガタスズメバチの巣を危うく踏むところでした。この時期は、気をつけようと改めて思いました。